

2021年3月期 決算
決算説明会

2021年4月28日

株式会社 トクヤマ



「収益認識に関する会計基準」等の適用について

2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用予定

決算期	「収益認識に関する会計基準」等の適用
～2021年3月期	無
2022年3月期～	有

当該基準等適用による2022年3月期の売上高への影響額は各スライドに記載。営業利益以下への影響額は軽微のため記載を省略

2021年3月期決算のポイント

- 2021年3月期は、足元の塩ビ海外市況好転などにより通期予想を上回る仕上がり
- 来期は原燃料価格上昇によるコスト増に対し、販売価格転嫁、販売数量増などを計画するが、成長に向けた研究開発費や減価償却費の増加により減益の見通し
- 成長戦略の着実な遂行により、中期経営計画2025に定めるポートフォリオ転換などの目標の達成を目指していく

CONTENTS

- ① 2021年3月期 決算
- ② 2022年3月期 業績予想
- ③ 中期経営計画2025の施策
- ④ 補足資料

① 2021年3月期 決算

1. 決算概要
2. セグメント別売上高／営業利益
3. 営業利益増減分析



① 2021年3月期 決算

1. 決算概要

(億円)

	2020年3月期	2021年3月期	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,160	3,024	△136	△4	サン・トックス連結除外 苛性ソーダの国内販売数量減少 石化製品の販売価格軟調
営業利益	342	309	△33	△10	苛性ソーダなどの販売数量減少
経常利益	328	307	△20	△6	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 当期純利益	199	245	+45	+23	特別損益の改善
1株当たり 当期純利益 (円)	287.05	351.11	-	-	-
為替 (円/\$)	109	106	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	42,700	31,200	-	-	-

(注) 前期・当期ともに収益認識基準適用なし

1. 決算概要

(億円)

	2020年3月末	2021年3月末	増 減	主要な変動要因
総資産	3,834	3,867	+ 33	現金及び預金の増加
自己資本	1,688	1,985	+ 297	親会社株主に帰属する 当期純利益の積み上げ
自己資本比率	44.0%	51.3%	+ 7.3ポイント	-
有利子負債	1,163	984	△179	長期借入金の減少
D/Eレシオ	0.69	0.50	△0.19	-
ネットD/Eレシオ*	0.21	0.07	△0.13	-
1株当たり純資産 (円)	2,431.21	2,758.37	-	-

*ネットD/Eレシオ：（有利子負債－現預金・現金同等物・金銭信託）／自己資本

① 2021年3月期 決算

2. セグメント別売上高／営業利益 (前期比)

(億円)

	2020年3月期		2021年3月期		増減			
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	937	153	854	141	△82	△9	△12	△8
特殊品	544	70	577	65	+33	+6	△4	△7
セメント	872	38	908	45	+35	+4	+7	+19
ライフアメニティー	563	28	459	31	△103	△18	+2	+8
その他	652	69	536	56	△115	△18	△13	△19
計	3,570	360	3,336	340	△233	△7	△20	△6
セグメント間 消去・全社費用	△409	△18	△312	△30	+96	-	△12	-
連結決算	3,160	342	3,024	309	△136	△4	△33	△10

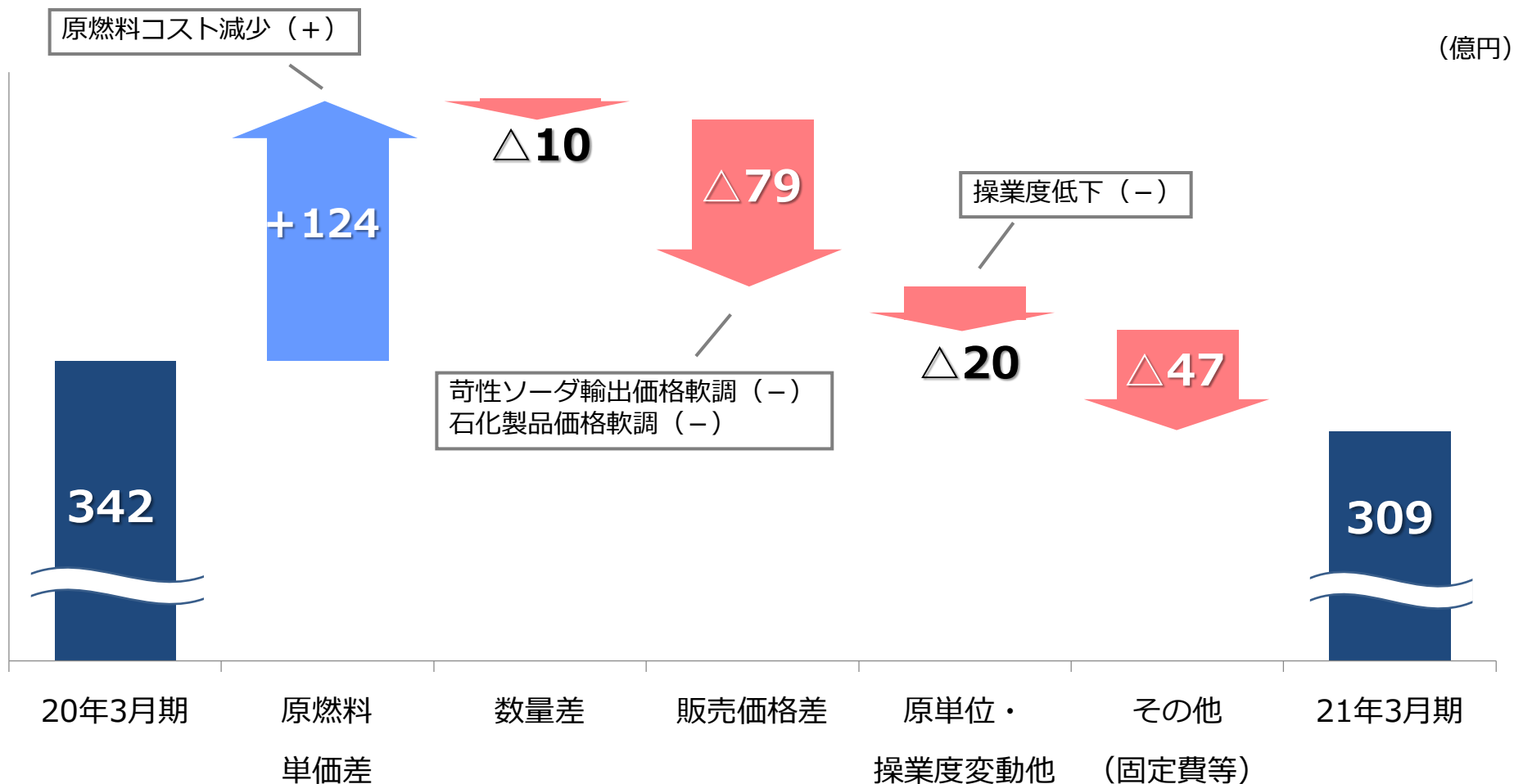
(注1) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(注2) 前期・当期ともに収益認識基準適用なし

3. 営業利益増減分析

(前 期 比)

要因別



② 2022年3月期 業績予想

1. 業績予想
2. セグメント別業績予想
3. 営業利益増減分析
4. 投資計画



1. 業績予想

(億円)

	2021年3月期 実績 収益認識基準適用：無	2022年3月期 予想 収益認識基準適用： 上段：有、下段：無	増 減		主要な変動要因
			金額	%	
売上高	3,024	2,710	△314	△10	コロナ影響改善 半導体関連製品拡販 石化製品の販売価格上昇
		3,140	+116	+4	
営業利益	309	260	△49	△16	先行投資の増加 原燃料コスト増加
経常利益	307	260	△47	△16	営業利益の減少
親会社株主に帰属する 当期純利益	245	220	△25	△10	経常利益の減少
1株当たり 当期純利益 (円)	351.11	305.62	-	-	-
為替 (円/\$)	106	105	-	-	-
国産ナフサ価格 (円/kℓ)	31,200	45,000	-	-	-

2. セグメント別業績予想

(注1) 各事業セグメントの売上高・営業利益にはセグメント間取引を含む

(注2) 当期・次期ともに報告セグメントの変更を反映した数値を記載

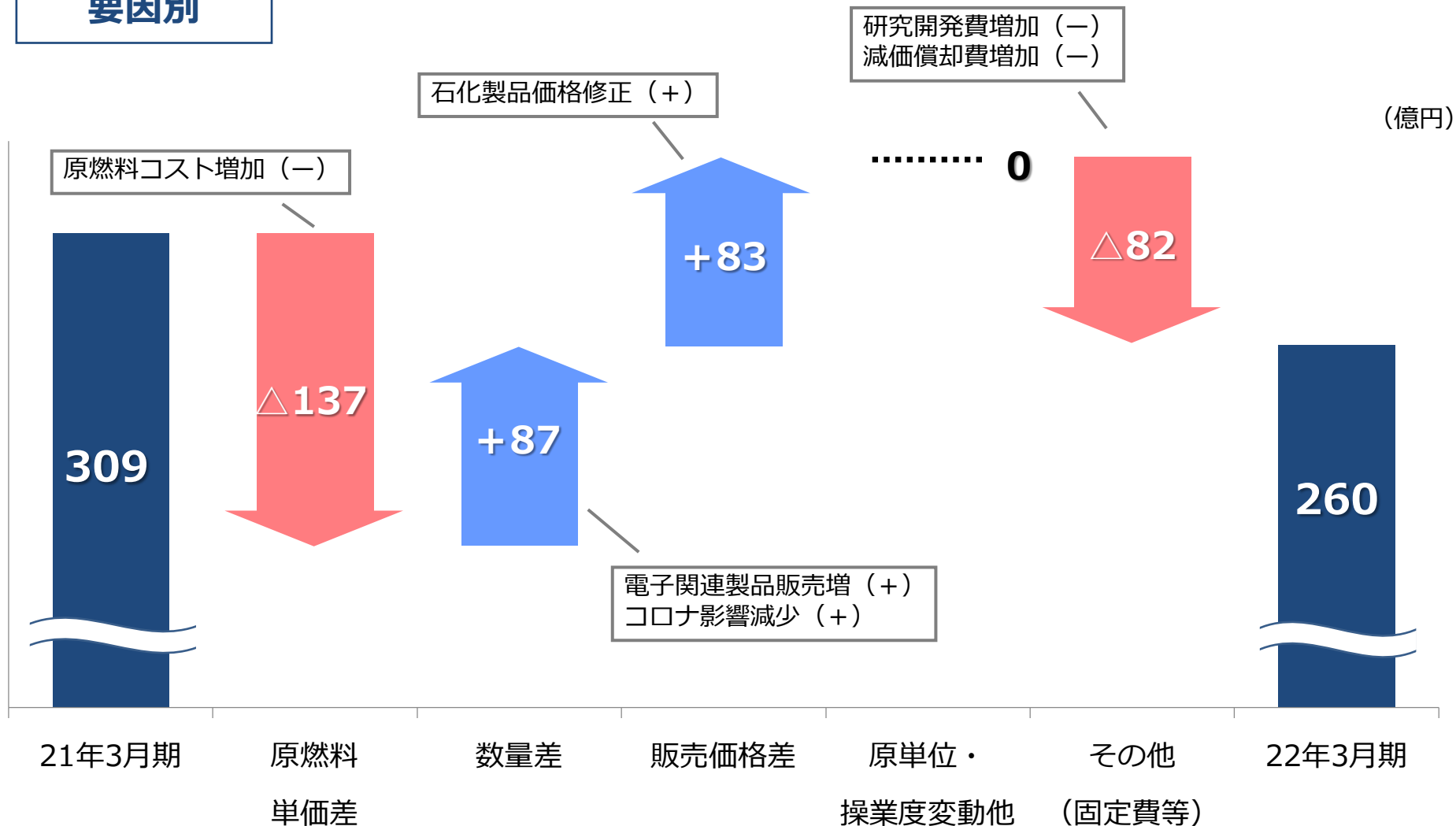
(億円)

	2021年3月期 実績		2022年3月期 予想		増 減			
	収益認識基準適用：無		収益認識基準適用					
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	%	営業利益	%
化成品	813	135	900	135	+86	+11	△0	△1
			913		+99	+12		
セメント	895	43	530	30	△365	△41	△13	△32
			911		+15	+2		
電子材料	618	71	685	50	+66	+11	△21	△30
			688		+69	+11		
ライフサイエンス	286	34	310	40	+23	+8	+5	+14
			312		+26	+9		
環境事業	95	△3	110	0	+14	+15	+3	-
			114		+18	+19		
その他	623	56	330	50	△293	△47	△6	△12
			516		△107	△17		
計	3,334	339	2,865	305	△469	△14	△34	△10
			3,456		+121	+4		
セグメント間 消去・全社費用	△310	△30	△155	△45	+155	-	△14	-
			△316		△6			
連結決算	3,024	309	2,710	260	△314	△10	△49	△16
			3,140		+116	+4		

3. 営業利益増減分析

(当 期 比)

要因別



4. 投資計画

連 結

(億円)

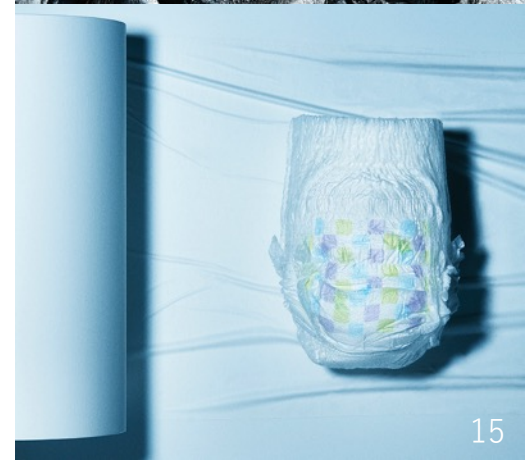
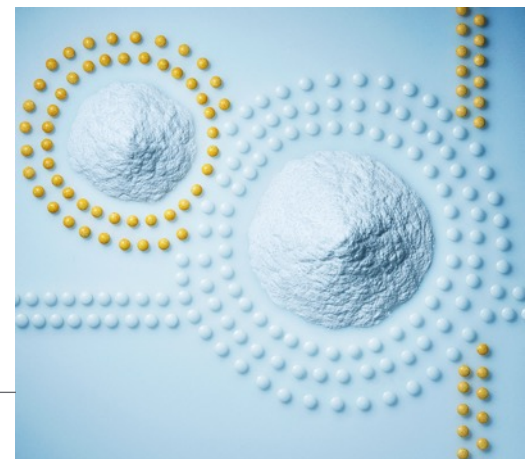
	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	増 減
設備投資額	264	448	+183
減価償却費	170	213	+43
研究開発費	108	142	+33

- 主な投資案件

2021年3月期	2022年3月期
歯科器材生産設備増強	高純度IPA 台湾JV工場建設
先進技術事業化センター構築	新規放熱材料生産設備導入
新規放熱材料生産設備導入	多結晶シリコン品質向上
高純度IPA生産・出荷設備増強	物流インフラ整備

③ 中期経営計画2025の施策

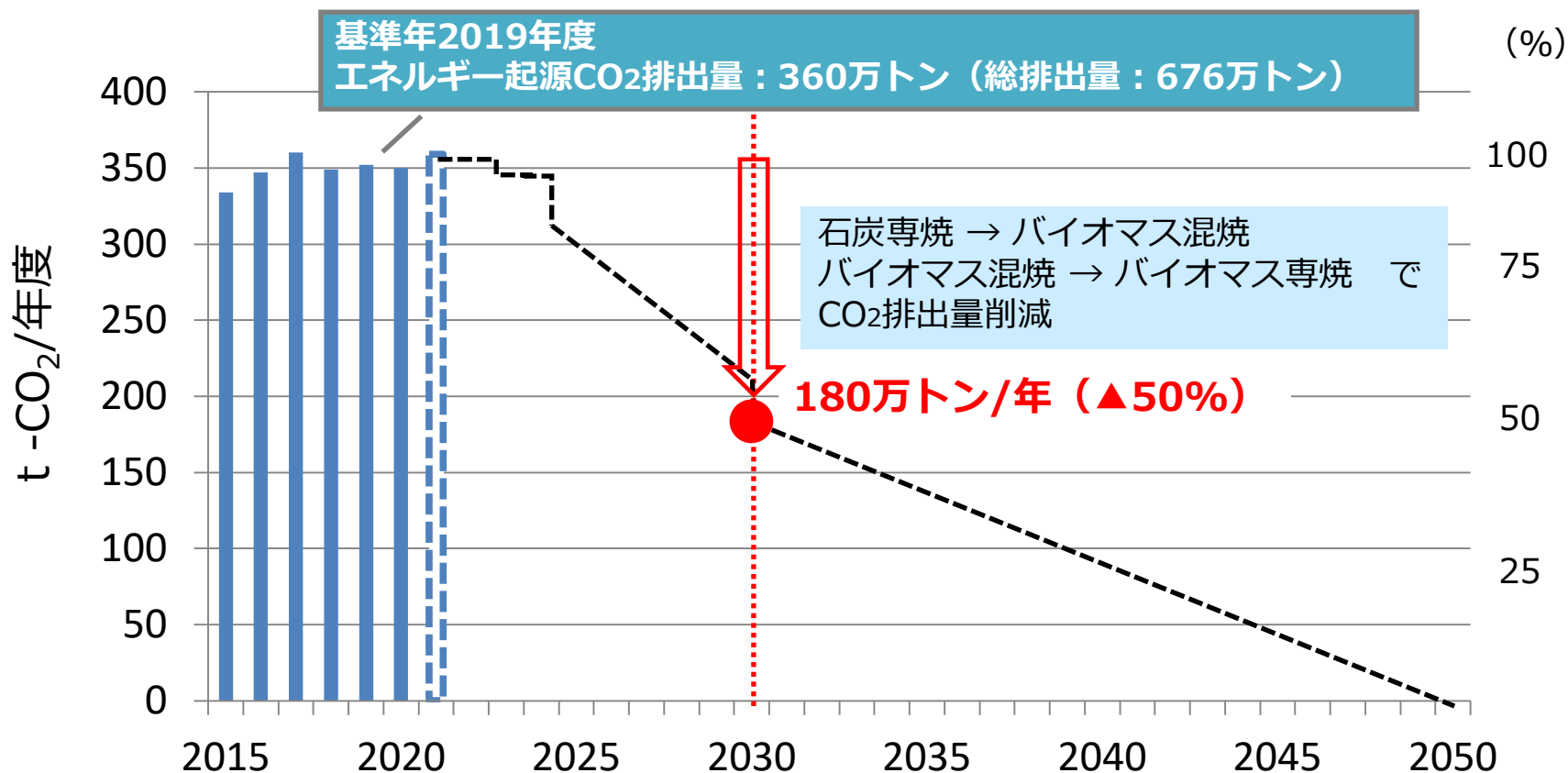
1. CO₂排出量削減の取り組み
2. 成長投資の進捗
3. 株主還元



1. CO₂排出量削減の取り組み

エネルギー起源CO₂排出の削減計画

- 2021年度は生産設備の稼働率増により排出量は増える予定
- バイオマス関連の投資を進めバイオマス燃料量の増加により、2023年度以降から本格的にCO₂排出量減少



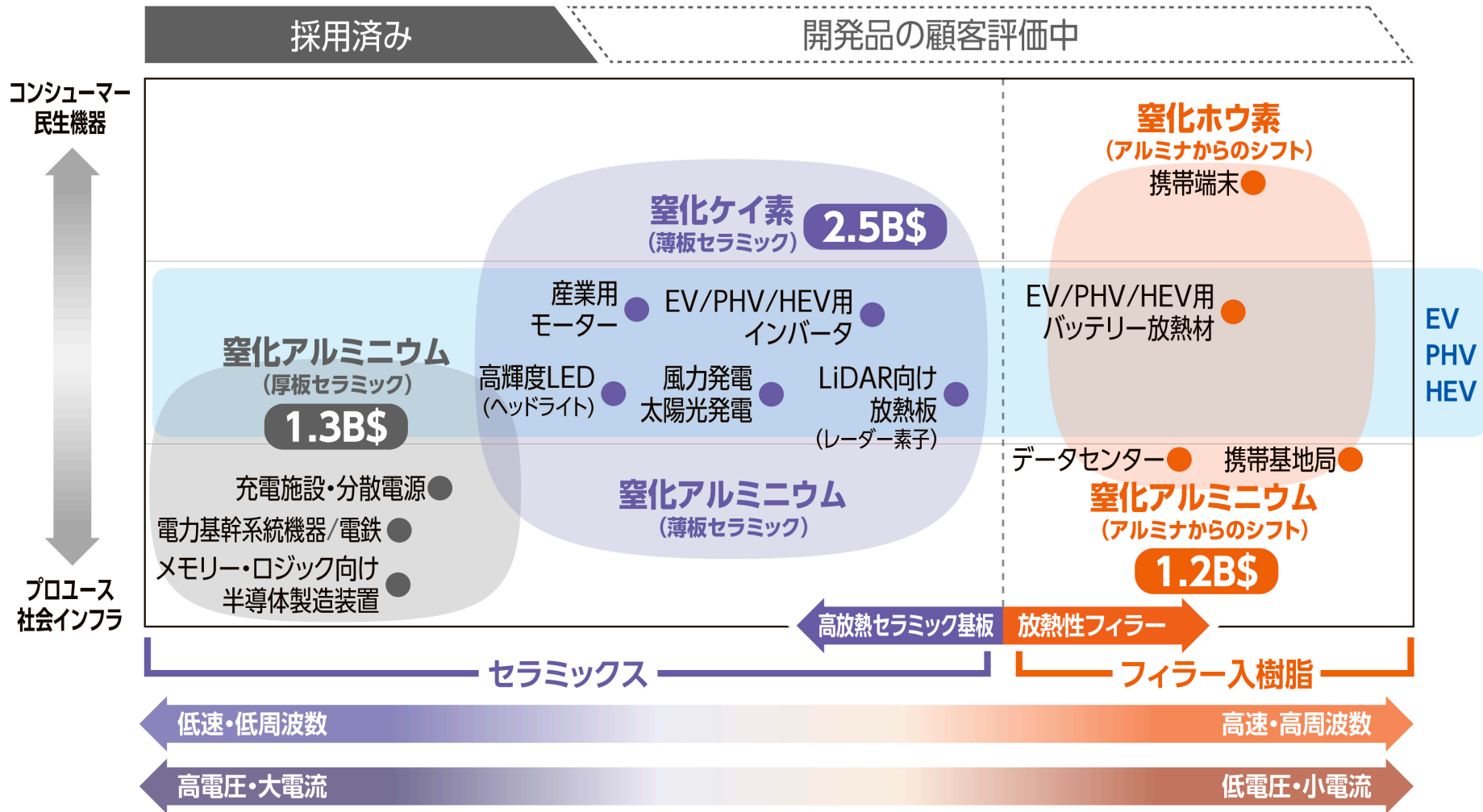
2. 成長投資の進捗

- 放熱材（窒化ケイ素）
 - 先進技術事業化センター（山口県柳井市）での生産開始を準備中
- 電子工業用高純度IPA
 - 台湾JVの工場建設中、今年9月に完成予定
 - 2022年1月からの出荷開始を予定
- 歯科器材
 - トクヤマデンタル 鹿島工場の生産設備を増強
 - 今年8月から生産を開始し、オムニクロマ®シリーズの拡販に寄与



2. 成長投資の進捗

パワー半導体用メタライズ基板の市場



* 2021年4月 当社推定

3. 株主還元

- 2021年3月期の期末配当については、予定通り35円の配当を実施
- 2022年3月期についても、中間配当・期末配当それぞれ35円の配当を予定

年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021 予想
中間配当金（円）	0.0	10.0	25.0	35.0	35.0	35.0
期末配当金（円）	0.0	20.0	25.0	35.0	35.0	35.0
配当性向（%）	—	11.5	10.1	24.4	19.9	22.9

（注1） 2016年度の配当性向は、当期純損失であるため記載なし

（注2） 2017年10月1日付で普通株式5株を1株に併合

（注3） 2017年度期末配当金には100周年記念配当10円を含む

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 

④ 補足資料

1. 連結財務諸表（要約）
2. 中期経営計画「再生の礎」目標達成状況
3. セグメント別予想
4. 営業外損益・特別損益・金融収支
5. 業績推移
6. 設備投資額・減価償却費推移
7. 有利子負債残高推移
8. フリー・キャッシュフロー推移



1. 連結財務諸表（要約）

損益計算書

（億円）

	2020年3月期	2021年3月期	増減	
			金額	%
売上高	3,160	3,024	△136	△4
売上原価	2,174	2,072	+101	+5
販管費	643	642	+1	+0
営業利益	342	309	△33	△10
営業外損益	△14	△1	+13	-
経常利益	328	307	△20	△6
特別損益	△49	1	+50	-
税引前当期純利益	279	309	+30	+11
法人税等	69	56	+12	+19
非支配株主利益	10	7	+2	+26
親会社株主に帰属する 当期純利益	199	245	+45	+23

（注）差損益の表示は、利益を+、損失を△としている

1. 連結財務諸表（要約）

貸借対照表

（億円）

	2020年3月末	2021年3月末	増減	
			金額	%
資産合計	3,834	3,867	+33	+1
流動資産	2,038	1,997	△40	△2
有形固定資産	1,231	1,240	+8	+1
無形固定資産	16	18	+2	+14
投資その他の資産	547	611	+63	+12

	2020年3月末	2021年3月末	増減	
			金額	%
負債合計	2,030	1,815	△214	△11
流動負債	952	833	△119	△13
固定負債	1,077	982	△95	△9
純資産合計	1,804	2,052	+248	+14

2. 中期経営計画「再生の礎」目標達成状況

		2020年度 目標値	2015年度	2020年度	評価
売上高		3,350億円	3,071億円	3,024億円	コロナ影響及び次期中計に向けた 先行投資の実施による固定費増加 等により目標未達
営業利益		360億円	230億円	309億円	
ROA		10%	5.7%	8.0%	不採算事業からの撤退と、 半導体関連製品や歯科器材等の 成長事業の販売増加により、 売上高営業利益率は目標達成
	売上高 営業利益率	10%	7.5%	10.2%	
	総資産回転率	1.0回転	0.77回転	0.79回転	
財務 指標	CCC	55日	69日	65日	在庫の削減が進まず目標未達
	D/Eレシオ	1倍	4.7倍	0.5倍	利益の積み上げと 有利子負債削減により目標達成
BRIGHT- II		40億円	-	56億円	目標達成
為替 (¥/US\$)		110	120	106	
国産ナフサ価格 (¥/kl)		58,000	42,800	31,200	

注: CCC(キャッシュコンバージョンサイクル): 売掛債権回転日数+棚卸資産回転日数-買入債務回転日数、

ROA: 営業利益/総資産で算出

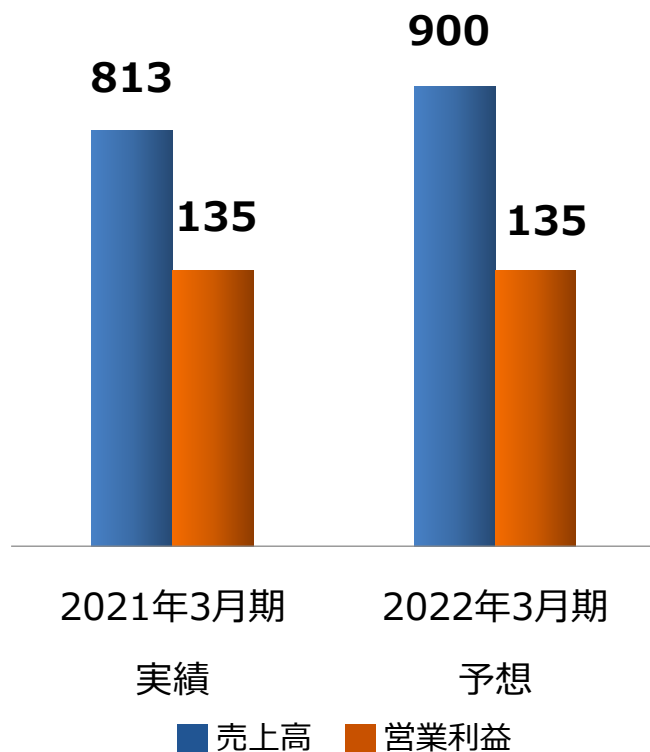
3. セグメント別予想 (化成品)

化成品

増収減益

定性情報

(億円)



2021年3月期は収益認識基準適用なし
 2022年3月期は収益認識基準適用あり

- ・ コロナ影響で減少していた販売数量は、徐々に回復に向かう見込み
- ・ 原燃料コストや主要製品の海外市況については、引き続き変動リスクの大きい状況が続く
- ・ 主要製品における出荷数量の確保及び原単位や固定費削減などのコスト競争力強化を推進し、収益確保に努める

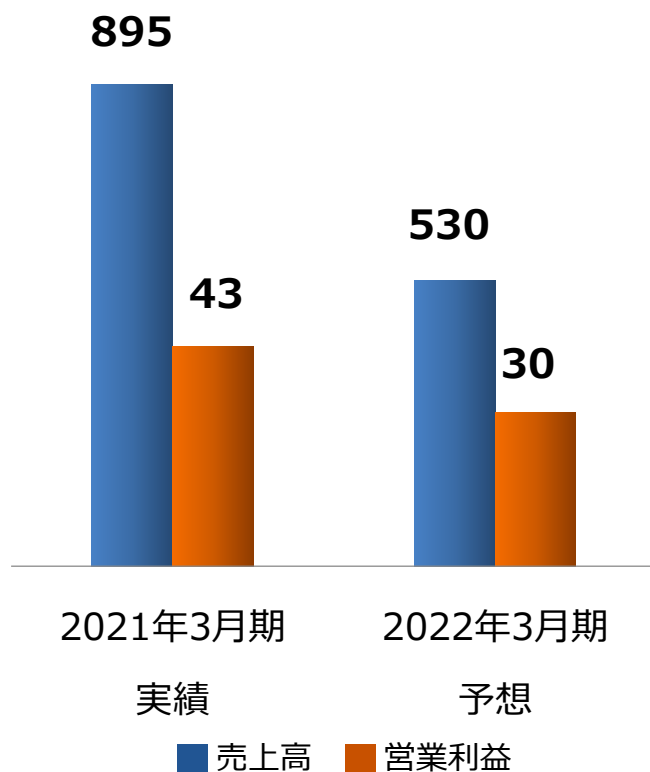
3. セグメント別予想 (セメント)

セメント

減収減益

定性情報

(億円)



- ・ コロナ影響で減少していた販売数量については、一定の回復を見込む
- ・ 今後の需要及び原料価格の動向等、事業を取り巻く環境は不透明な状況が続くと想定
- ・ 製造コストの徹底した削減、及び各営業拠点における施策の実行等により、収益確保に努める

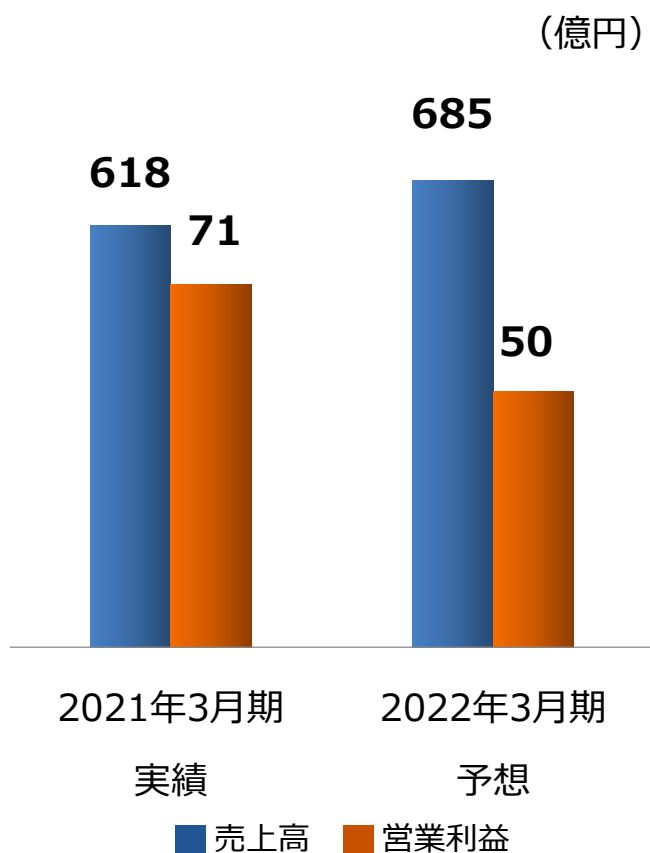
2021年3月期は収益認識基準適用なし
 2022年3月期は収益認識基準適用あり

3. セグメント別予想 (電子材料)

電子材料

増収減益

定性情報



2021年3月期は収益認識基準適用なし
2022年3月期は収益認識基準適用あり

- ・半導体市場は、5Gの導入やリモートワークの増加を背景に堅調な推移を予想。
半導体関連製品の更なる拡販に向けた積極的な設備投資を予定

(半導体向け多結晶シリコン)

- ・品質を更に追求し、他社と差別化した高付加価値品の拡販を目指す

(電子工業用高純度薬品)

- ・日本及び台湾を中心とした製造・販売拠点を強化し、需要拡大に対応した供給体制の確立に注力

(放熱材)

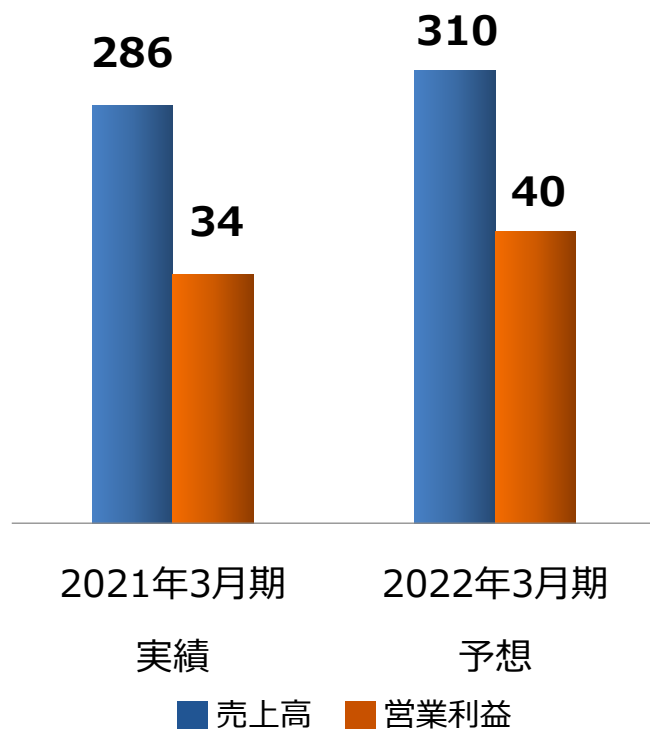
- ・既存製品の拡販を進めるとともに、製品のラインナップを増やすべく開発に注力

3. セグメント別予想 (ライフサイエンス)

ライフ
サイエンス

増収増益

(億円)



2021年3月期は収益認識基準適用なし
2022年3月期は収益認識基準適用あり

定性情報

(プラスチックレンズ関連製品・歯科器材)

- ・コロナ影響で減少していた欧米向け出荷数量については回復傾向。

引き続き顧客ニーズや市場の変化に対応した新製品開発と販売活動に注力し、収益の拡大を目指す

(医療診断システム)

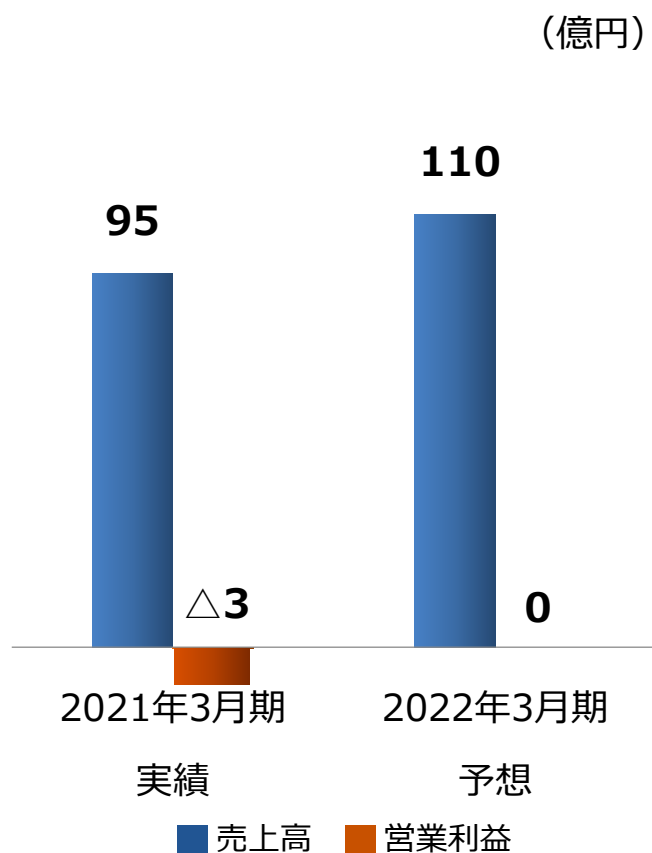
- ・事業の選択と集中を進め、2021年2月にエイアンドティーを完全子会社化。グループ全体でリソースの活用・協業を進め、診断試薬開発をより一層強化し、事業を拡大

3. セグメント別予想（環境事業）

環境事業

増収赤字縮小

定性情報



2021年3月期は収益認識基準適用なし
2022年3月期は収益認識基準適用あり

- ・ 環境事業を将来の一つの柱とするために、グループ内に点在していた環境関連事業を集約し、新たな事業展開を目指すセグメントとして新設
- ・ イオン交換膜、樹脂サッシ、廃石膏ボードリサイクル等の既存事業に加え、今後CO₂排出削減の技術開発及び事業化により収益を拡大し、事業ポートフォリオ転換のシンボルとして持続可能な社会への貢献と事業の成長を実現

4. 営業外損益・特別損益・金融収支

連 結 (前 期 比)

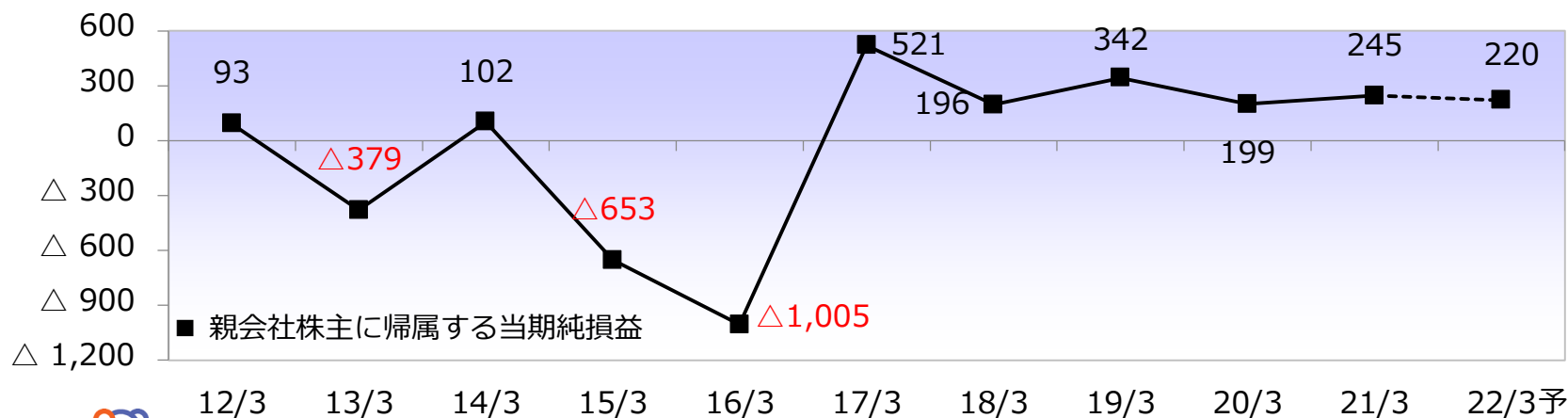
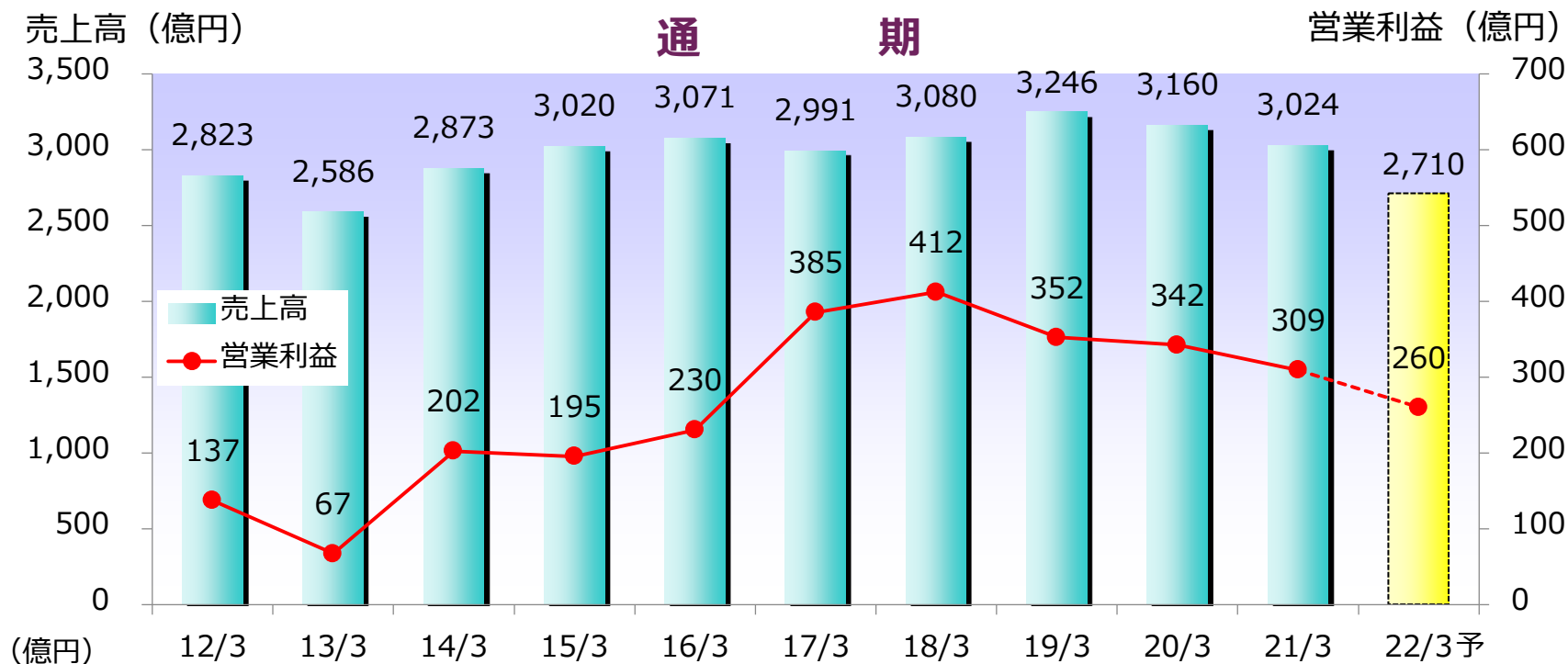
(億円)

		2020年3月期	2021年3月期	差損益
営業外収益	受取利息・配当金	4	4	△ 0
	その他	36	46	+10
	計	41	51	+10
営業外費用	支払利息	16	15	+1
	その他	38	37	+0
	計	55	52	+2
営業外損益		△14	△ 1	+13

特別利益	8	31	+23
特別損失	57	30	+27
特別損益	△49	1	+50

金融収支	△11	△ 10	+1
------	-----	------	----

5. 業績推移

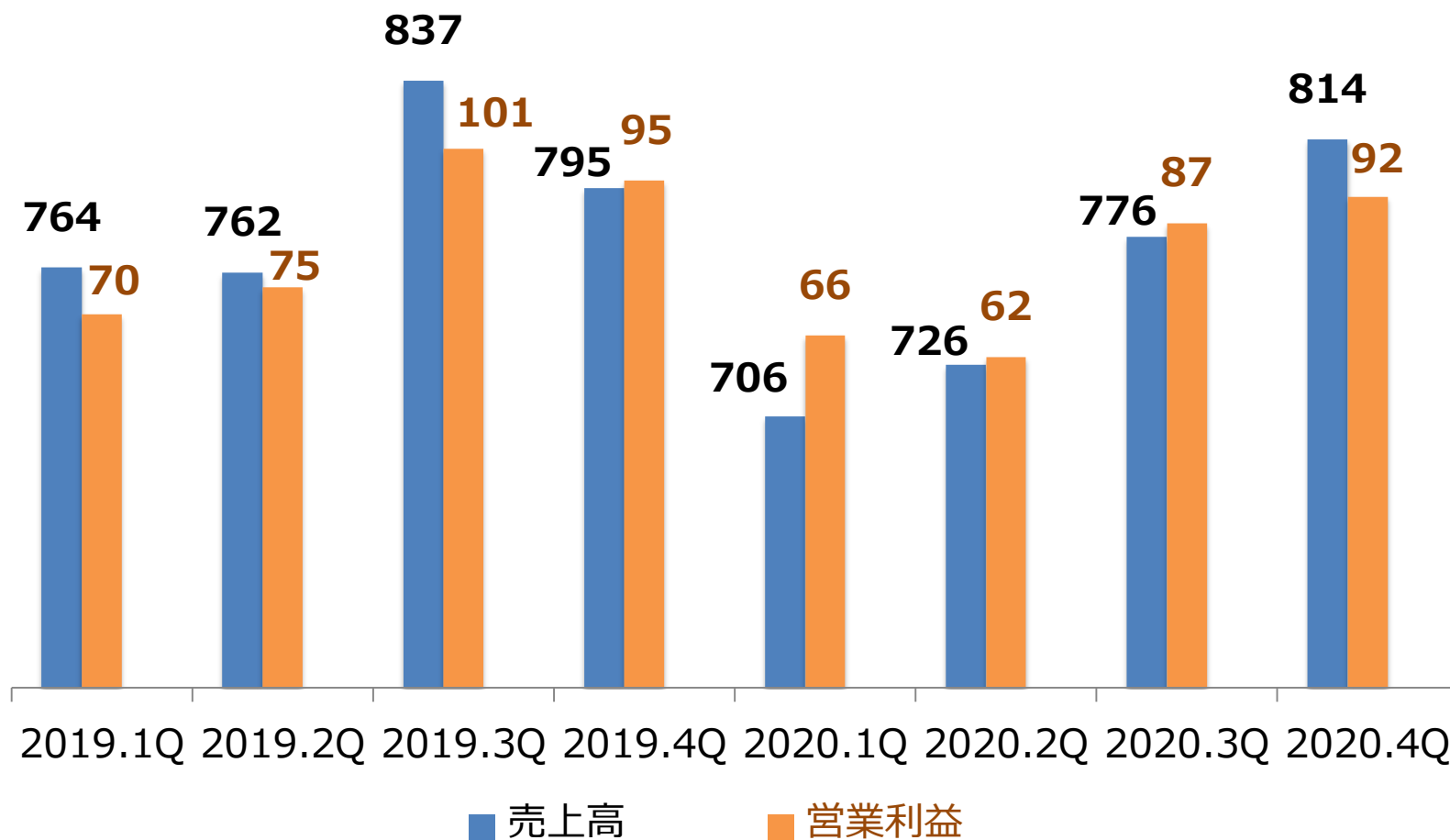


5. 業績推移

連結

四半期

(億円)

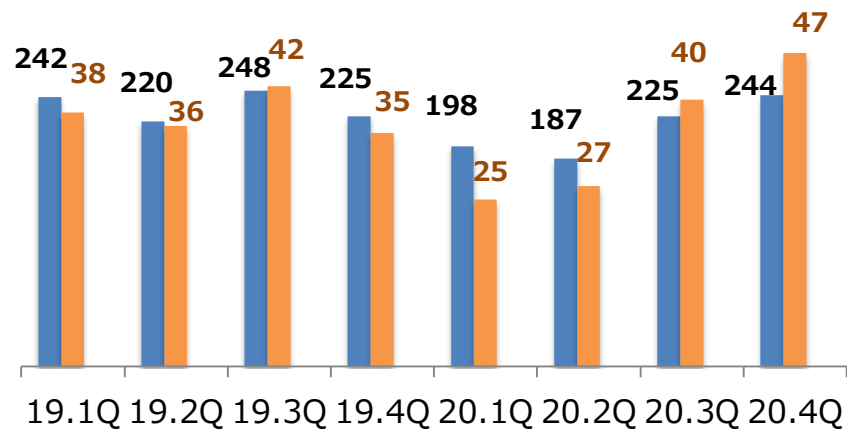


5. 業績推移

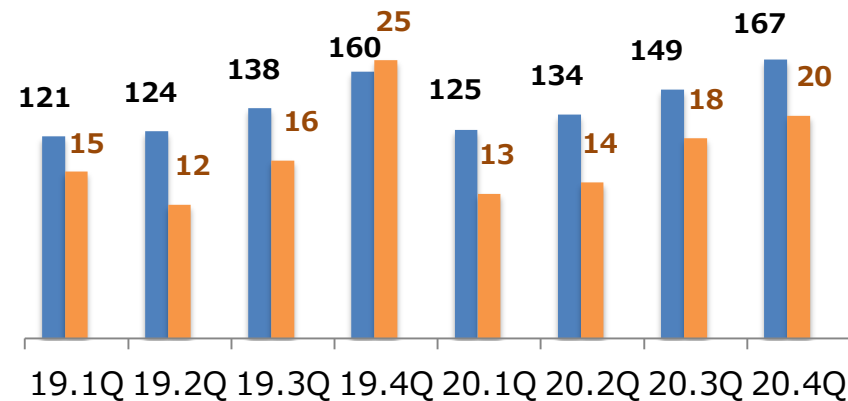
四 半 期

(億円)

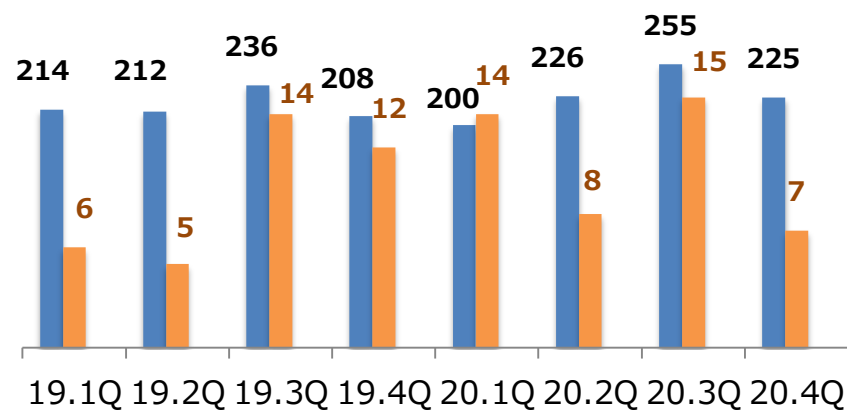
化粧品



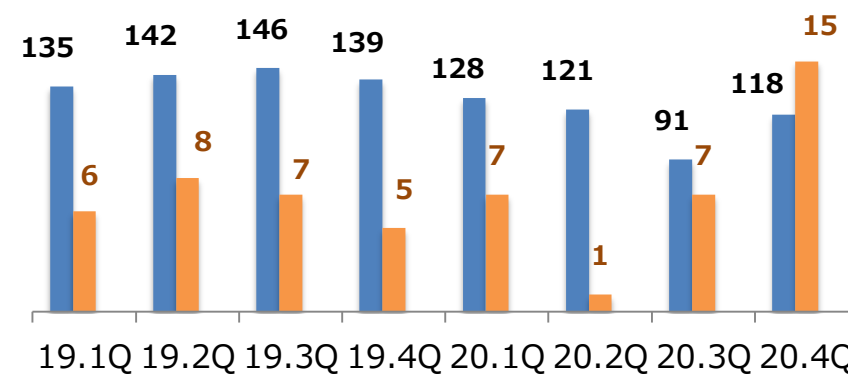
特殊品



セメント



ライフアメニティー

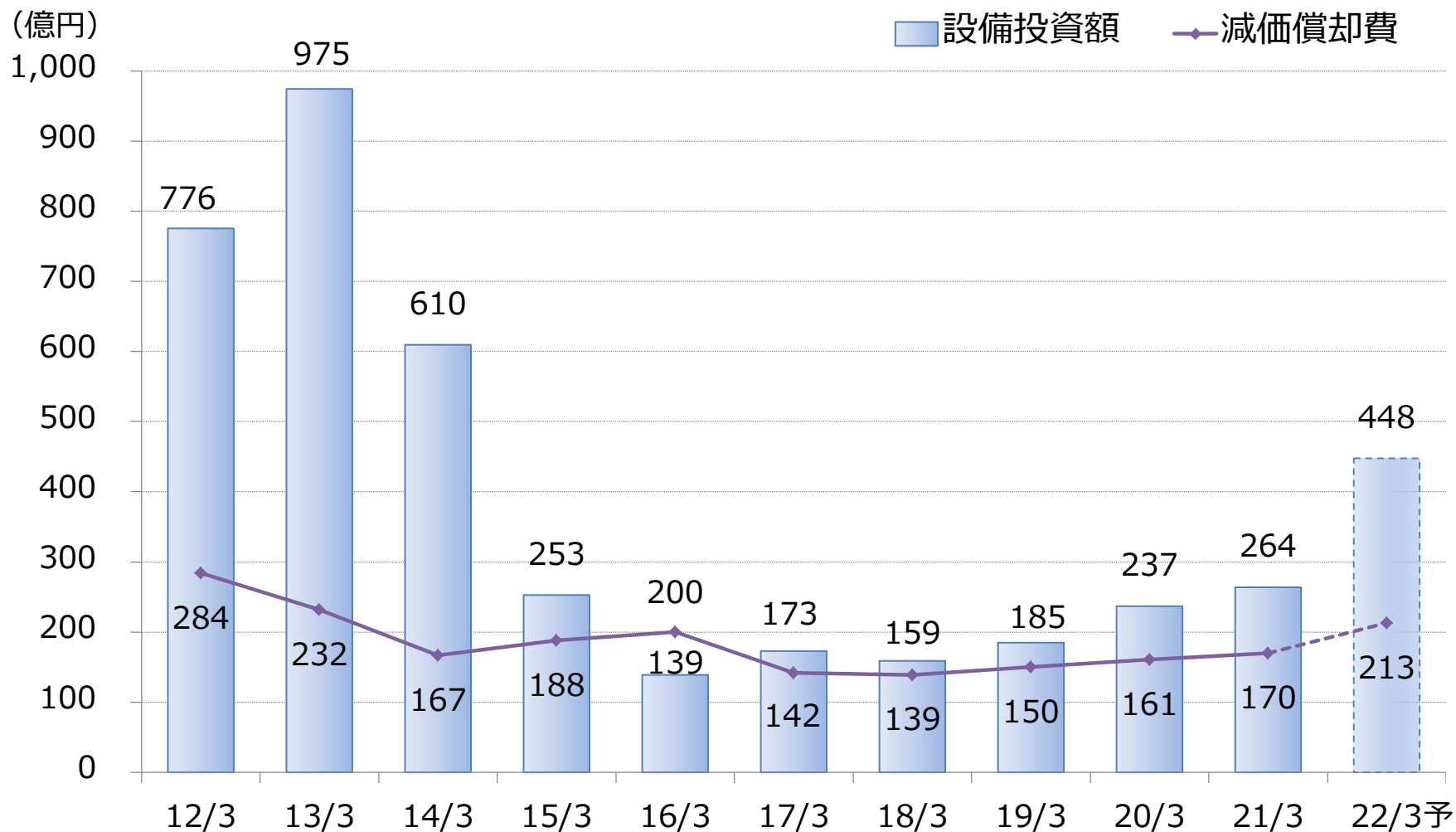


■ 売上高 ■ 営業利益

6. 設備投資額・減価償却費推移

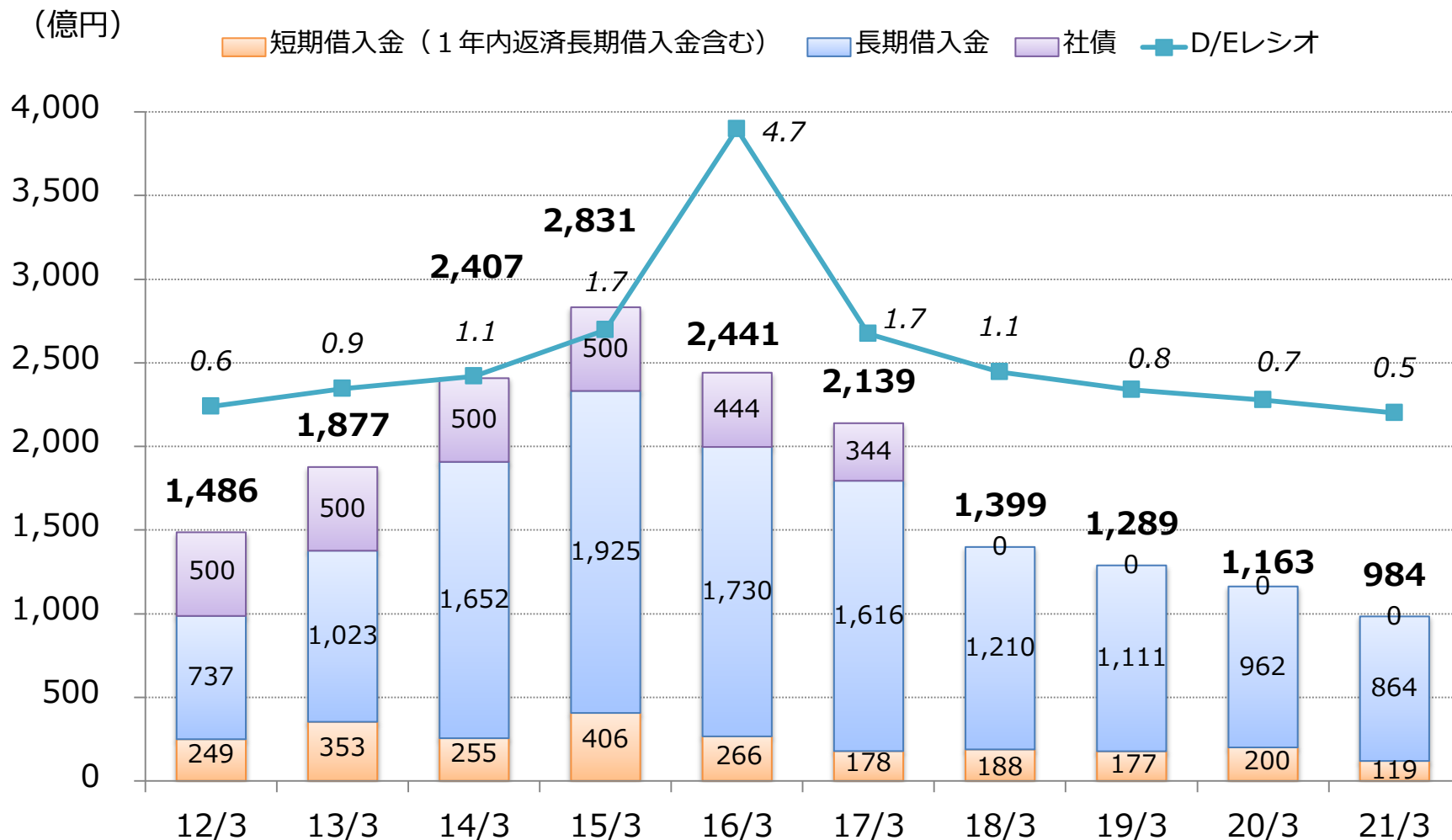
連

結

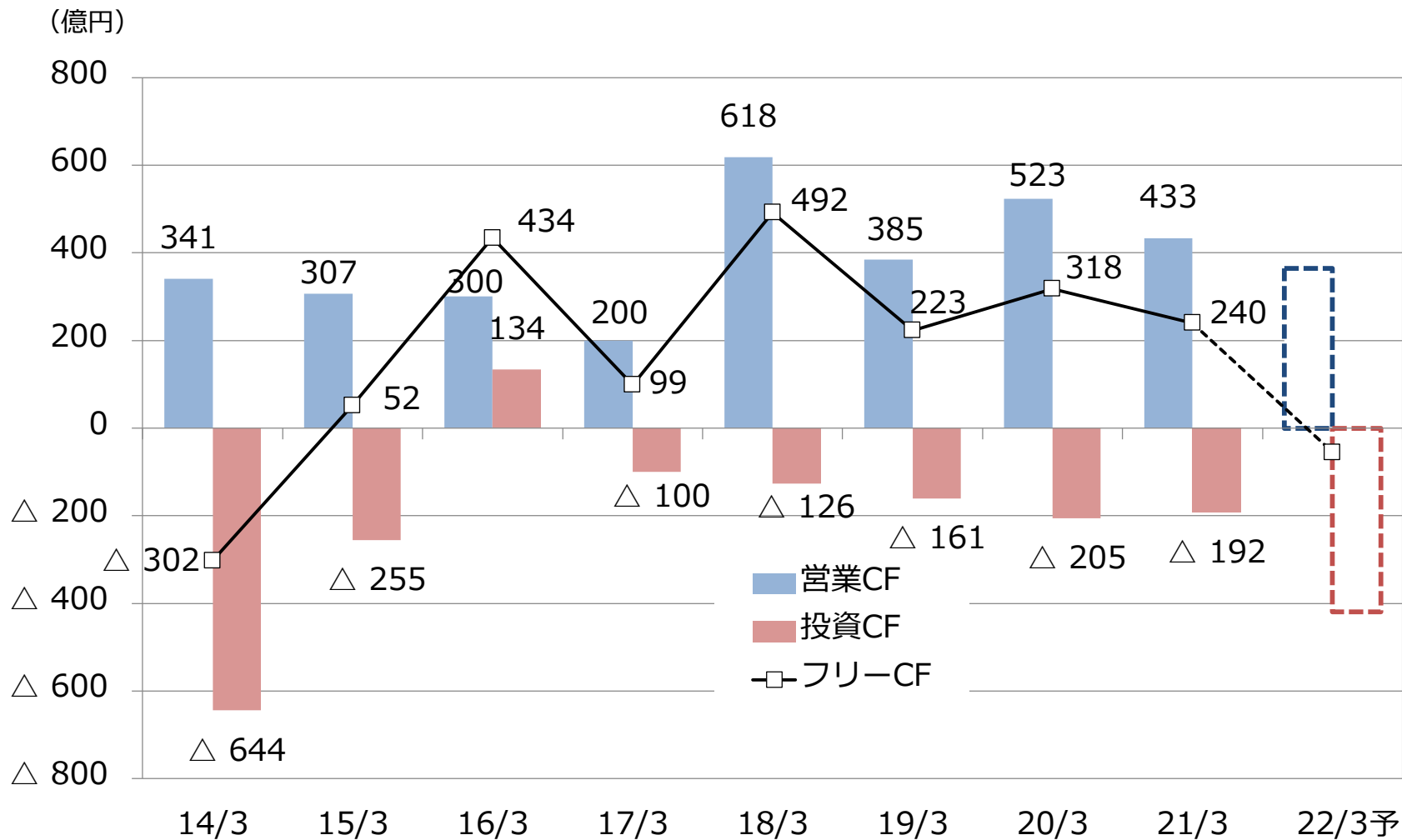


7. 有利子負債残高推移

連 結



8. フリー・キャッシュフロー推移 連 結



本資料に関するご注意

本資料は情報提供を目的とするものであり、何らかの勧誘を目的とするものではありません。

本資料は現時点で入手可能な情報に基づき作成したものでありますが、不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。

本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じるいかなる損失に対しても、当社は責任を負いません。

また、当社の許諾なしに掲載情報を使用（複製、改変、頒布、販売、転載、出版等を含む）することはできません。

もっと未来の人のために

TOKUYAMA 